

## はちたか棚田保全に20万円

J A岐阜信連が中津川市に寄付



寄付目録を読み上げる渡邊茂典代表理事理事長(中央)  
＝中津川市役所

県信用農業協同組合連合会(J A岐阜信連)は27日、中津川市福岡地区の「はちたか棚田」の保全に、企業版(ふりごと)納税の

制度を活用し、市に20万円を寄付した。

J A岐阜信連は棚田が持つ自然環境保全の役割に着目し、持続可能な開発目標(SDGs)の一環で、農林水産省の「つなぐ棚田遺産」の認定を受けた棚田の保全活動の支援を続けている。昨年度からは対象の棚田がある恵那、飛騨、下呂の3市に寄付しており、今回の中津川市は4例目。

同日、市役所に渡邊茂典

代表理事理事長らが訪れ、青山節児市長に目録を手渡した。渡邊代表理事理事長は「多面的な機能を持つ棚田は、地域の暮らしを守るもの。地域の支援につながる活動に役立ててほしい」と述べた。市は農業人材育成事業と位置づける「明治大農学部」の学生を対象とした農業体験実習の本年度実施分にかかった費用に充当する計画。

(富樫一平)